

民族衣裝 三二圖鑑



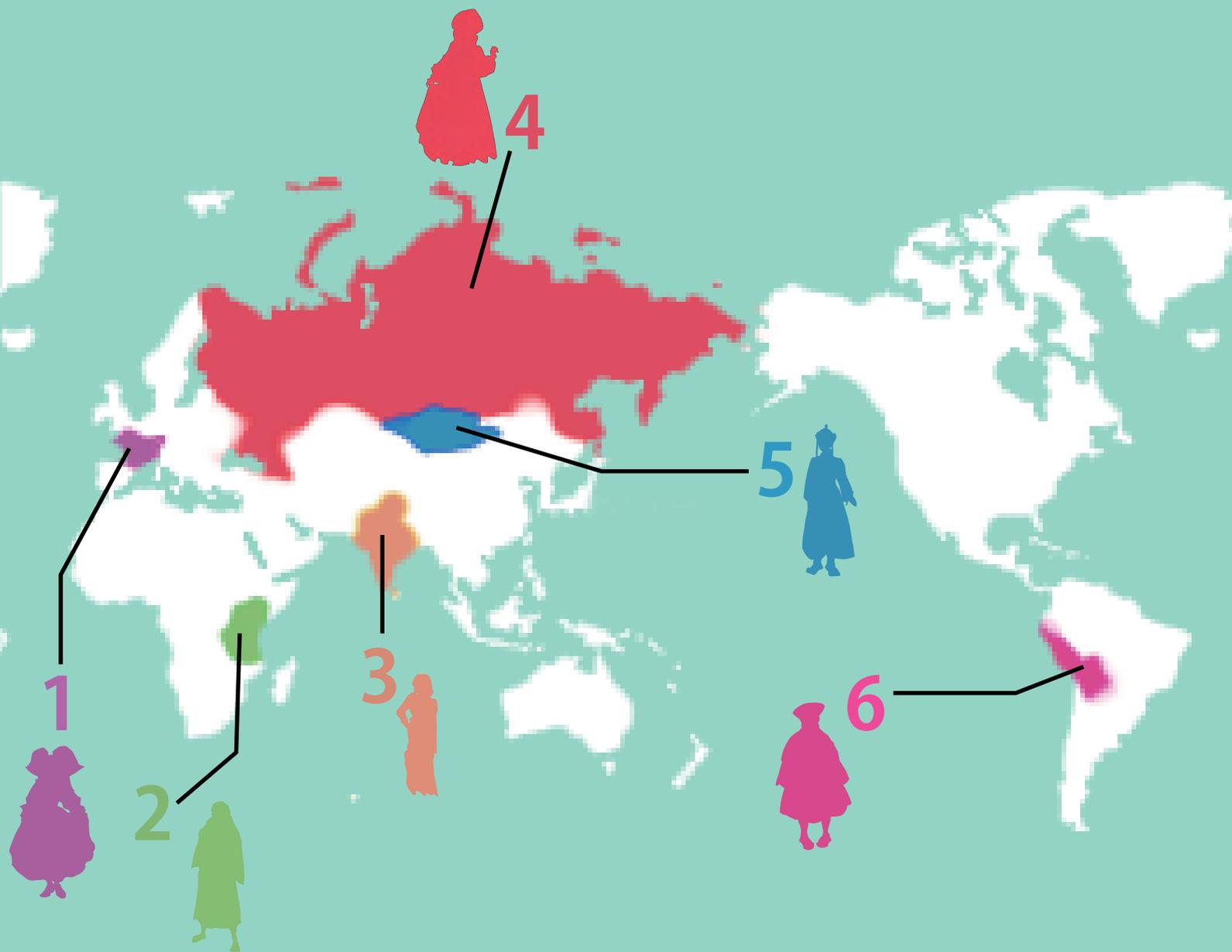
民族衣装とは

「民族衣装」とは、ある地方や民族特有の衣服のこと。言語・宗教・歴史など、自然や文化・伝統を共有する人間集団に固有の服。関連する呼称として、国家が国民に着用を推奨（または強制）する国民服、都会から離れた地域の衣装として民俗服・郷土服・地方服といわれるものもある。

民族衣装の形には、人体にまといつける「巻垂型」^{まきだれがた}、頭を通してかぶって着る「貫頭型」^{かんとうがた}、腰のまわりのみに装着する「腰布型」^{こしぬのがた}、前を合わせて着て帯を締める「前開型」^{まえあきがた}、人体の形に合わせた「体形型」^{たいけいがた}の5つがある。それぞれに独自の形・デザイン・文様をもち、それを表現するために染織技術を発達させてきた。

21世紀現在、世界的に洋服が主流となってきたが、普段洋服を着用する人々の間でも、伝統行事に民族服を着用する場合もある。国によって伝統衣装の着用が国民に義務付けられており、今日でも民族服を身に纏って生活している地域もある。また民族衣装は、流行ファッションのデザインに影響を与えることもある。

目次と世界地図



1. アルザス地方衣装

2. カンガ

3. サリー

4. サラファン

5. デール

6. ケチュア族衣装

アルザス地方衣装



【主な地域】 フランス (北東部アルザス地方)

地方毎に様々なものがあるフランスの民族衣装の一つ。沢山のアイテムで細かく構成されており、中でも「シュミーズ」と「コルスレ」の間に差し込む胸飾り「プラストロン」・飾り襟の「コルレット」・頭に大きなりボン型の帽子「コワフ」を被るのが特徴的。時代や地域、宗派や民族によって色や柄が大きく異なり、一番有名なのは黒いコワフに赤いスカートのカトリック教

徒のものである。現在では特別な日のみに着るもので、ワイン祭りや収穫祭等のお祭りにこの衣装を着用した女性達を見る事が出来る。

カンガ



【主な地域】 タンザニア、ケニアに代表される東アフリカ

【由来】 スワヒリ語で「ホロホロ鳥」

一枚布で多様な着こなし方のある色鮮やかな衣服。本場では二枚ひと組で腰巻布&ショールとして使うのが一般的、衣類のほか、風呂敷・敷物・おんぶ紐など広く利用されている。用いる布地は決まった形が出来ていて、幅110cm長さ150cm程のコットン素材である。文様構成もパターンがあり、縁取り部分・中央部分にそれぞれ異なった模様（モチーフに決まりはない）が

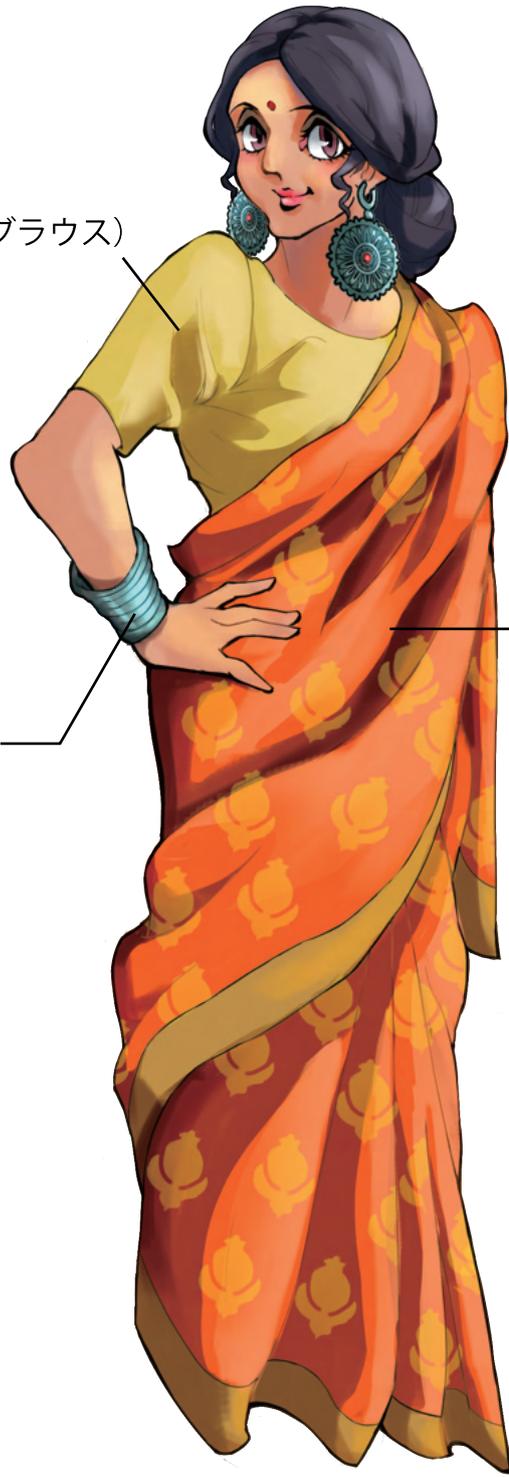
描かれている。大きな特徴は、センターの下に「カンガセイイング（スワヒリ語のことわざや格言・愛の言葉）」がプリントされていることで、身につけ自分の気持ちを表現出来ることから、しゃべる布とも呼ばれている。

サリー

チョリ (丈の短いブラウス)

バングル

サリー



【主な地域】 インド、ネパール、スリランカ等南アジア

【由来】 サンスクリット語で「細長い布」

由来の通り長さが5.5m程の1枚の細長い布の巻垂型、無縫製の衣服を清浄とするヒンドゥー教の衣服である。土地の気候や風土に応じた着方が出来地域によって着付け方は様々だが、一般的なスタイルに、「チョリ」とアンダースカートのペチコートを着用した上に、「サリー」を身体に巻き、余ったサリーの端を左肩の後ろに垂らすウルター・パッルーがある。現在もサ

リーに身を包んで暮らす人はおり、特に地方や年配の方が来ている割合が高い。若い人や都市部に住んでいる人でもハレの日に鮮やかなサリーで着飾る。

サラファン



【主な地域】 ロシア（北部・中部）

【由来】 ペルシア語で「頭から足まで着用」

ジャンパースカートに似たゆったり目のシルエットの衣装。丈は足まで隠れる程長いものが多いが短いものもあり、ネックラインの位置や形・作り方も様々で決まりはない。扇型の頭飾り「ココーシュニク」と、髪型で女性のステイタスを判断することが出来た、一般的に長いお下げ髪は嫁入り適齢期の娘である。ロシア民謡、赤いサラファンの通り、赤のものは晴れ着であり

豪華な刺繍を施して花嫁衣装としていた。有名なマトリョーシカが着用している王道の服装も、サラファンとプラトーク（ロシア語でショール）である。

デール



【主な地域】 モンゴル

男女問わず立襟で左に打ち合わせがある丈の長い上着、馬に乗った時も動きやすい遊牧民の為の衣装である。チャイナドレスのルーツにあたる。女性用の帽子「エメグテェ・マルガエ」は側面にビーズがついており、肌色が美しく小顔に見える効果がある。部族、性別、既婚・未婚、年齢などによって着るべきとされるデールは異なり、種類がおよそ 400 以上もある。現在

は普段からデールを着用する人は減多におらず、特別な日のみに着用している。T字型、前を打ち合わせて着用、広げれば1枚布として用途が多い等デールは日本の着物によく似ている。

ケチユア族衣装



【主な地域】ペルー、ポリビア、エクアドル等アンデス山地

アンデス高原ケチユア族の色彩豊かな衣装。ウエストを締めた短い丈の上着「サコ」と、何枚も重ねて穿き大きく膨らませたスカート「ポジェラ」を組み合わせたスタイルには、スペイン植民地時代の女性の衣装の影響が強く残されている。「リヒリャ」(肩掛け)は赤ん坊を背負ったり、収穫物を入れたり、食べ物の食卓がわりに使ったりと万能の布である。お祭り等で

は、裾の広がったスカートは踊るたびに太陽の光を浴びたスカートがいっぱい美しく広がるため、刺繍が一層に際立つ。

民族衣裝
三二圖鑑